

## 既存意匠の継承に関する検討項目

現況材料の利用、保全を基本とするが、材料の劣化、法規や性能への対応、材料再現製作の場合に関わる製作材料費・施工費及び現場工期を確認した上で、現実的な判断を行う。

下記の各項目解説冒頭の□内は「平成16年度京都会館の改修計画に係る基本調査業務報告書」内の劣化診断から抜粋、要約。今回ピックアップした9項目のうち「A=健全な状態」は1項目、「B=軽微な劣化が見られ、計画的な更新が必要」と「C=著しい劣化が見られ、緊急に対策が必要」の双方にまたがる判定は5項目、「D=著しい劣化が見られ、緊急に対策が必要が3項目。（※）は機能的、法的な面を考慮し、劣化度の判定を引き下げた項目を示す）

### 大庇

**劣化度B（出、入隅部C）** 出隅部はプレキャスコンクリート（以下PC）と現場打コンクリート（以下RC）の収縮度の違いによって破損したため、1969年頃に仮設的な方法で補強されている（現在、躯体収縮は少なくなったと考えられる）。PC自体の劣化度は比較的良好。保護塗装を検討したほうがよい。防水層劣化による漏水により、ジョイント部にエフロが発生しているが、防水修復によって防止可能。

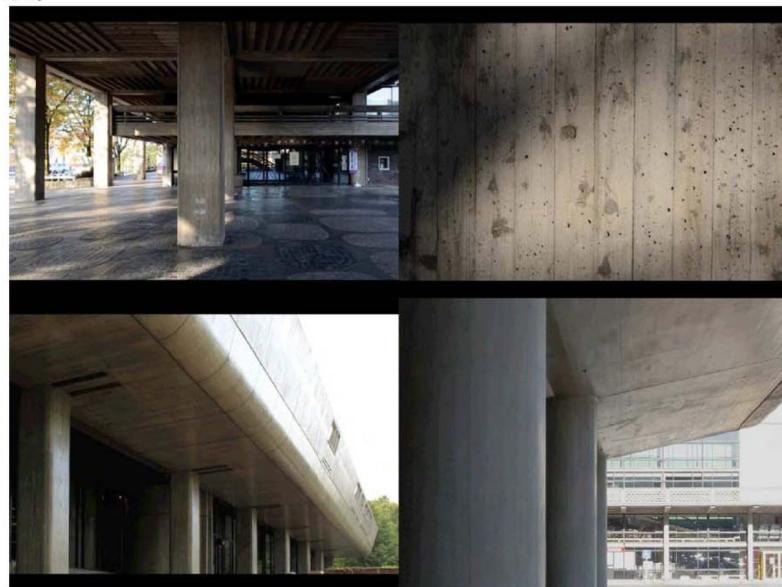
新規第1ホール部分も、現況と同位置同形状の大庇を設置。既存部分はコア抜き検査により中性化の進捗状況の確認など、現況調査のうえ既存利用可能な判断を行う。構造体が保存上危険を生じない耐力を有しているかどうか確認中。復元保存、構造補強を含めて検討中。



### RC柱、梁

**劣化度B（大屋根部C）** 柱梁に20万所以上の錆鉄筋の露出が見られるが、構造体に致命的な影響を与える程ではない。H15の耐震診断では中性化進度max5.6mmでかぶり厚内で良好な状態。

耐震基準を満たしておらず、耐震壁の平面的配置も問題があり、第2ホールホワイエに耐震プレース等を設置する必要がある。表面の劣化から放し面の修繕として、フッ素やアクリル等、樹脂塗装の検討が必要。風合いが大きく変化するため確認作業が重要となる。



左下：東京文化会館 外壁改修事例

右下：神奈川県立青少年センター外壁改修事例

## 既存意匠の継承に関する検討項目

### 壁 ブリックタイル

**劣化度A** 経年劣化はほぼみられない。第2ホール上部の外壁に、塗装した跡がみられ、正常な部分との色違いを生じている。剥落等は見られない。赤い塗装跡は塗料であるため、剥離材などを使用した除去を検討する。

目地部分に空洞が見られる箇所もあり、第2ホール上部出隅ではタイルの浮きや膨れが見られる。ピンディング、樹脂注入工法等による落下防止対策が必要。赤い塗装跡は深く浸透している可能性があり再調査を行う。

現況材料は歪みが大きく、かつ表面を手仕事にて製造しているため、再現は困難。工法性能共に現代における最良の方法ではないため、新規壁でブリックタイルを用いる場合、タイルの割、大きさ、色味、風合いなど、焦点を絞った継承検討を行う。



### スチールサッシ、カーテンウォール

**劣化度C** 部分的に錆があり、開閉動作が重い。クレセントは殆どが機能不全。基準法により排煙窓が必要な可能性あり。耐震改修により建物の剛性が増し、ガラス割れ問題が拡大する可能性あり。

ガラス割れ、脱落からの利用者安全の確保、断熱等の環境性能、安全に開閉出来る状態にする必要性、材料そのものの耐久性等、からサッシの交換が必要。アルミ等材料への変更も含め検討。



## 既存意匠の継承に関する検討項目

### コンクリートルーバー

劣化度調査なし

会議棟1階部分、現況事務所スペースから、にぎわい施設への用途変更となる箇所。二条通から中庭へ抜ける明るい表情の空間として、人が往来し、視線も抜けるよう計画しているため、撤去の方向で検討を行っている。



### 床 ブリックタイル

劣化度C※ 材の劣化や汚れは少ないが、凹凸が障害となっている。

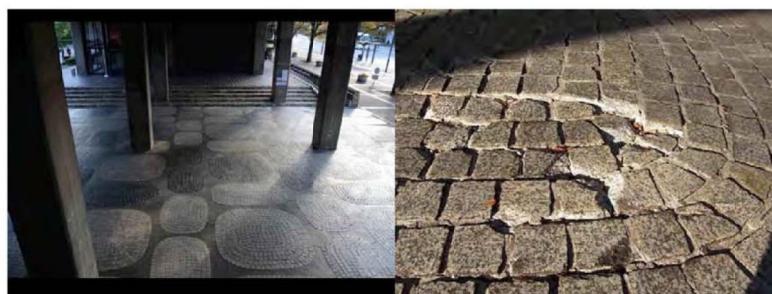
一部タイルは交換補修済み。既存材を利用し、目地詰めによる平滑化検討を行う。底目地の凸凹を減らしバリアフリーデザインへ対応させる。



### 小判型御影石ピンコロ床

劣化度C※ 材の劣化や汚れは少ないが、凹凸が障害となっている。

破損・劣化が進行している。過去の中庭改修により異なる仕上げとなった中庭の「二条通から冷泉通への抜け」である床舗装部分は、竣工当初の意匠を回復させる検討をする。現況素材を利用し、凹凸の平滑化、バリアフリーデザインへ対応させる。



### PC手摺（欄干）

劣化度B～C 雨に打たれる部分の劣化が激しく、交換が必要。ヘーアクラック、ゆがみ一部欠損も見られる。手摺の欠落箇所があり、通行人にとって危険。

三日月型の形状を守る。手摺高さ1100mmに満たないため、安全面の対応を行う。劣化対策として雨水処理の検討が必要。



### PC階段

劣化度B～C コメント記載無し

クラック、経年によるゆがみが発生。会議棟テラスから中庭へ続く階段は、高さ3mを超えていたため踊場の設置が必要。階段そのものの交換、形状変更の必要がある。



### パーライトコンクリートパネル

劣化度B（ボルト部分）パネル自体の大きな劣化は少なく、下地材も安定（経年劣化は否めない）。固定ボルト錆汚れがパネルまで付着。

一部材料の交換、シール打直しが確認される。固定ボルトの錆が進行、手の触れる部分はパーライトが剥離している。スプリングクラー等天井設備を追加する必要があり、開口処理が可能か確認をする。平行して復元保存のコストを確認し、共に現実性が無い場合は異素材への交換とする。

